

|                |   |    |      |  |  |  |   |  |
|----------------|---|----|------|--|--|--|---|--|
| 教科             | 国語科   | 科目 | 文学国語 | 単位数  | 4  | 学年   | 2 |  |
| 学科<br>・<br>コース | 普通科 全コース<br>美術科 アート・イラスト・アニメーションコース   |    |      |  |  |  |   |  |
| 教科書            | 『文学国語』 数研出版   |    | 副教材  | 『新訂版 最新国語便覧』 浜島書店<br>教科書準拠ワーク<br>辞書アプリ<br>〈特進コースのみ〉<br>『LT現代文2』 浜島書店<br>『語彙力と理解力をつける現代文単語』 数研出版<br>〈看護医療コースのみ〉<br>『三訂版現代語練習帳ことのは』 いいずな書店 |  |  |   |  |
| 科目の概要          | 近代以降の文学的な文章（翻訳の文章、古典における文学的な文章、近代以降の文語文、演劇や映画の作品、文学の表論文を含む）を読み、深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする力の養成を重視する。作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする。演劇や映画の基になった作品と比較して、批評文や紹介文などにまとめる。教科書を離れて本や新聞記事なども適宜教材として活用し、生徒の興味・関心を広げる。特進コースでは、適宜問題演習を行う。 |    |      | 評価の観点  | 次の三観点で評価を行う。<br>「知識・技能」は、学習内容を理解できているかどうか。<br>「思考・判断・表現」は、文章を読んだ内容を自分の知識とし、更に発展的に考えることができているか、など。<br>「主体的に学習に取り組む態度」は、国語の力を伸ばすために積極的かつ主体的に学習しているかどうか、など。 |  |   |  |
| 授業内容           | 【1学期】   |    |      | 評価方法   | 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点を2：2：1の割合で判断する。<br>ノート、授業態度、学習意欲、家庭学習の提出物、小テスト、自己評価などで総合的に判断する。  |  |   |  |
|                | オリエンテーション、小説入門、平成の小説、昭和の小説、グループワーク<br>【2学期】<br>大正の小説、詩歌、創作活動、文学評論グループワーク<br>【3学期】<br>明治の小説、古典と現代語訳グループワーク   |    |      |  | 学習方法   | 基礎的知識の習得にはプリントなどを用いて学習を進める。また、必要に応じて、グループ学習やプレゼンテーション作業などを通じて、自分の意見が主張できるように努める。授業後、教科書準拠学習課題ノートで再度内容の確認をする。 |   |  |
|                | 年間を通して漢字学習と読書活動に取り組む。   |    |      | 備考   | 漢字検定の全員受検に向けて、適宜検定対策を取り入れる。<br>特進コースは模試の時期に合わせて適宜問題演習を行う。  |  |   |  |

|                   |   |             |   |  |   |    |   |
|-------------------|---|-------------|---|--|---|----|---|
| 教科                | 国語科   | 科目          | 古典探究  | 単位数  | 2 | 学年 | 2 |
| 学科<br>・<br>コース    | 普通科 全コース  |             |   |  |   |    |   |
| 教科書               | 東京書籍『精選古典探究 古文編』<br>東京書籍『精選古典探究 漢文編』  | 副<br>教<br>材 | 東京書籍『精選古典探究 古文編 学習課題ノート』<br>東京書籍『精選古典探究 漢文編 学習課題ノート』<br>東京書籍『新精選古典文法 三訂版』<br>東京書籍『新精選古典文法 準拠ノート 改訂版』<br>東京書籍『新総合 図説国語』<br>辞書アプリ |  |   |    |   |
| 科目<br>の<br>概<br>要 | 「言語文化」で育成された資質・能力のうち「伝統的な言語文化に関する理解」をより深める。<br>古典を主体的に読み深めることを通して、伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解する。<br>古典作品に関連のある事柄について様々な資料を調べ、その成果を発表したり報告書などにまとめたりする。<br>日本の文化の特質や、日本の文化と中国など外国の文化との関係を考える。 |             | 評価<br>の<br>観<br>点   | 「知識・技能」…「言語文化」での既習事項（用言・助動詞の活用）に加え、敬語表現・助詞・副詞などの古典文法及び漢文訓読法習得の定着ができているか。<br>「思考・判断・表現」…古典の内容を理解し、それを発展させて考え、課題や発表の中で自分なりにきちんと表現できているかどうか。<br>「主体的に学習に取り組む態度」…古典に興味を持ち、予習や復習を自発的に行っているかどうか。 |   |    |   |
|                   |   |             | 評価<br>方<br>法  | 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点を2：2：1の割合で判断する。<br>定期考査、ノートや副教材などの学習内容、授業態度、学習意欲、提出物の内容および提出状況、小テスト、自己評価などで総合的に判断する。   |   |    |   |
| 授<br>業<br>内<br>容  | 古典作品全般（古文、漢文に偏りなく扱う）<br>【1学期】<br>古文：説話、歌物語<br>漢文：小話、史記<br><br>【2学期】<br>古文：随筆、歴史物語、軍記物語<br>漢文：詩（近体詩、日本の漢詩）、思想（儒家）<br><br>【3学期】<br>古文：作り物語<br>漢文：思想（道家）                                 |             | 学<br>習<br>方<br>法  | 予習として本文を何度も読み、語句の意味などをあらかじめ辞書で調べておく。<br>授業には集中して取り組み、ただ板書を写すだけでなく、後で活用できる自分なりのノートを作成できるよう工夫する。<br>復習では高い意識で家庭学習にのぞみ、授業で習った文法事項などを定着できるよう反復練習を行う。   |   |    |   |
|                   | 適宜、レポート課題やグループワーク、発表を取り入れる。   |             | 備<br>考  |  |   |    |   |